

**2011年9月26日 日本テレビ 定例記者会見**

## 《 全文 》

## ＜発表＞

大久保好男社長：日本テレビはネットワーク局のミヤギテレビと共に、アナウンサー・キャスターが被災者の方々と声を出し、絵本の読み聞かせ等を行う支援活動、「よみひと知らず」を8月26日(金)に宮城県石巻市立湊小学校の体育館で行いました。東日本大震災の発生から半年が過ぎ、被災地ではこれまでの衣食住のケアと共に被災者の心のケアが重要な課題となっている中、「よみひと知らず」はテレビ局ならではの被災地支援と社会貢献を目指すものです。想定していた以上の方々にお越し頂き、喜んで頂けました。今後も10月中に岩手県の学校でのワークショップ、10月27日(木)に福島県南相馬市や浪江町からの被災者の方々が生活する福島県耶麻郡磐梯町の施設で男性アナウンサー4名による落語会、また年明けにもこうした取り組みを行う予定です。地元のネットワーク局のアナウンサーと連携を取りながら進めていきます。

視聴率は、年間・年度で前年に比べてライバル社との差をゴールデンタイム、プライムタイム共に縮めています。視聴率のトップ奪還という目標を達成するため、引き続き努力していきます。

**1. 視聴率動向と編成戦略**

記者：今回の番組改編の狙いと最近の視聴率の動向をお願いします。

小杉善信取締役：10月改編のポイントは「弱点の強化」です。現在私どもが弱点と認識しているのは朝と昼の帯番組、そして平日の19時台です。このうち朝、昼の帯番組は改善の兆しが見えています。「ZIP!」は8月29日週、9月5日週で週平均視聴率9.0%と番組開始以来最高となる等、順調に数字を伸ばしています。また「ヒルナンデス!」も8月月間平均で過去最高の視聴率を獲得し、9月23日(金)は6.1%と、初めて6%を越えました。平日の19時台については月曜日の「不可思議探偵団」を終了し、7月から水曜日に放送している「宝探しアドベンチャー 謎解きバトル TORE!」を移動します。そして水曜日には新たに音楽バラエティー「1番ソング SHOW」を編成します。「TORE!」は8月31日(水)に13.6%、

先週の2時間スペシャルでは12.8%を獲得する等、十分に戦えるソフトです。前番組に比べて平均で1.4ポイント上げており、月曜日19時からその後20時台の「世界まる見え!テレビ特捜部」へと視聴フローの親和性が良くなる事を期待しています。そして水曜日の「1番ソング SHOW」は音楽バラエティーとしてこれまで2回放送し、その経験を踏まえて今回「1番ソング SHOW」という形でこの時間に編成します。これも視聴フローを含め、さらに戦えるソフトになると考えています。また火曜日の21時には「なんでもワールドランキング ネプ&イモトの世界番付」を新たに編成します。この番組は「金曜スーパープライム」の枠で2回放送し、13.7%と高視聴率を獲得しています。ここから22時の「スター☆ドラフト会議」への流れを良くする事を目指します。全体として10月改編では必ず4月改編を上回ると見えています。

現在の年間視聴率は、プライムタイムでトップと0.1ポイント差で2位、ゴールデンタイムは同率で首位です。プライムタイムの差は正確には0.1ポイントも離れていませんので、10月改編ならびに特番週の後半で十分追いつけると見えています。

記者：「ZIP!」「ヒルナンデス!」が改善してきた理由は何でしょうか。

小杉取締役：各「コーナー」が強くなってきたからです。「ZIP!」は番組として「日本の朝をHAPPYにし、ニッポンにエールを送る」というコンセプトがあり、個々の「コーナー」の集合体です。それぞれの「コーナー」が名物になりそうな勢いが出てきています。例えば「ZIPPEI スマイルキャラバン」では犬のZIPPEIとミュージシャンのダイスケさんが全国行脚していますが、訪れた先ではネットワーク局の視聴率が格段に上がるという実績も出ていますので、こうした「コーナー」が全国的に底上げされ、名物コーナーとしてスピノフ番組が製作できる実力がついた時に「ZIP!」はどこにも負けない番組になると思います。

記者：年間視聴率で日本テレビはゴールデンタイム、プライムタイムで首位を狙うのでしょうか。

大久保社長：昨年からです。フジテレビの4冠王を崩して、まずプライムタイム、ゴールデンタイムからトップを奪還する事が社を挙げての目標です。現在ここまで追い上げていますので、必ずトップを奪還するという強い決意で全社を挙げて取り組んでいます。

記者：島田紳助さんが暴力団との関係を理由に芸能界を引退しましたが、いかがでしょうか。

大久保社長：日本テレビはコンプライアンス憲章で、「反社会的勢力には常に毅然とした態度で臨み、いかなる利益供与も行わない」と謳っています。島田紳助さんが記者会見で述べた事が事実であれば、番組に出演して頂いたテレビ局という立場としては極めて遺憾です。私どもは今後も引き続き、反社会的な勢力、団体、個人に対しては常に毅然とした態度で臨み、どのような形であっても利益供与を行う事はありませんという立場です。

記者：10月1日から暴力団排除条例が施行されますが、どのように対応しますか。

大久保社長：10月1日に東京都の条例が施行されますが、その時点から新たに行動するのではなく、今までも反社会的な勢力、団体、個人との関係については日本テレビのコンプライアンス憲章に基づいて対応してきましたし、これからも変わりありません。ただし、この条例制定を機に様々な方面から改めてテレビ局の毅然とした態度を望むご意見も挙がっていますので、そうしたご意見も踏まえて今後はさらに毅然とした対応策を考えていきます。

記者：契約締結において、反社会的勢力の排除についてどのような具体策を取っていますか。

大久保社長：私どもは社内コンプライアンス憲章に基づいて様々な事業を行っており、反社会的勢力、個人、団体に対しては毅然とした態度で臨んでいますので、関係性等が明確になれば、その時点で日本テレビは対応する方針です。今後、反社会的勢力、暴力団との密接な関係者である事の認定等、具体的な問題にテレビ局としてどう対応していくか、検討していきます。

記者：反社会的勢力との関係性を断つ事は放送局に限らず社会全体の問題だと思いますが、放送局独自の課題や難しさを感じていますか。

大久保社長：反社会的勢力が膨張していくような、あるいは広まっていくような事があってはなりません。テレビ局は報道機関でもありますので、社会的責任は一層大きいと思っています。しかしテレビ局だからといって何か特別な難しさがあるとは思いません。

記者：契約書に具体的な対応を盛り込むのは難しいのでしょうか。

大久保社長：まず実態を調べて、私どもが反社会的勢力に対して毅然とした態度を取っていく方針の中で具体的な対応を決めていけばいいと思います。また、色々なところで話し合いが行われています。警察庁、警視庁から要請があつて民放連としても協議しているという事ですので、その協議等も参考にしながら、これから対応を考えていきます。

記者：島田紳助さんが司会をしていた「行列のできる法律相談所」の後任の司会はいつ頃決定されますか。

小杉取締役：新司会者の発表はまだです。これまでに4回の放送で、東野幸治さん、雨上がり決死隊の宮迫博之さん、そしてフットボールアワーの後藤輝基さんの3名に交互に司会を担当して頂きました。この次に誰が担当するのか敢えて発表しないのは“演出の妙”とご理解頂ければ幸いです。またこの4回の放送では平均視聴率17.5%と昨年の年間平均を上回っています。

## 2. 営業状況と放送外収入

記者：営業状況並びに放送外収入についてお願いします。

大久保社長：10月の改編に合わせたレギュラー番組の営業については、ネットタイムセールスで完売し、安定して推移しています。また、スポットセールスの9月分はほぼ終了しました。地区全体のスポットセールスの投下量も前年をかなり超え、市況は全体的に回復しているとの印象を持っています。日本テレビも前年同期を上回る状況です。11月も比較的好調な出足ですので前年に比べると年内はやや安心できると考えています。ただし、年明け以降は円高と欧州を中心とした不安定な経済状況等があります。年明け以降は世界的規模で経済状況が厳しくなるとの分析も聞きますし、広告営業も見通しが立っていない状況です。

放送外収入では、映画事業ではスタジオジブリ作品の「コクリコ坂から」は昨年の「借りぐらしのアリエッティ」の興行収入には到達していませんが、他の作品に比べて興行収入を十分に挙げています。「それいけ! アンパンマン すくえ! ココリンと奇跡の星」も昨年の作品を大きく上回る好成績です。

また、9月5日まで開催しました「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展 印

象派・ポスト印象派奇跡のコレクション」は最終的に入場者が 38 万人に達し、成功であったと考えています。

記者：11 月公開の「映画 怪物くん」への期待はどうでしょうか。

能勢康弘常務取締役：「映画 怪物くん」には大いに期待しています。既に問い合わせも相当あり、この映画はぜひ大きな仕掛けをしながら成功させたいと考えています。

### 3. 地デジ完全移行、その後

記者：東日本大震災で被災した東北 3 県を除き、地デジ完全移行しましたが、今後の取り組みはいかがでしょうか。

大久保社長：8 月以降、地デジに関して日本テレビの視聴者センターへの電話は 1 日 1 本あるかないかという状況です。テレビ局が視聴者の皆様と直接対話しながら対策を進める段階は基本的には終わったと見ています。一方、それとは別に難視聴地域問題があります。衛星放送によるセーフティネットの利用世帯が全国で 9 万世帯ありますが、そのうち 4 万 6 千世帯が関東地方だと言われています。セーフティネットの使用期限は 2015 年 3 月末までですので、これらの難視地域が地上放送を受信できるように中継局設置やケーブル移行等の様々な対応措置を進めています。

記者：地デジならではの番組制作はどうでしょうか。

小杉取締役：8 月 29 日から 9 月 4 日までの夏休みの最終週を「“地デジをフルに楽しもう！” キャンペンウィーク」として、視聴者の皆様に地デジテレビの魅力を楽しんでもらう様々な取り組みを行いました。ゴールデンの番組でも、例えば「世界の果てまでイッテ Q!」でデータ放送による視聴者投稿を行い、投票数が多いものを 3 択の中から放送する企画では、約 15 万人に投票参加をして頂きました。また深夜帯でも様々な企画を展開し、AKB48 の「なるほど!ハイスクール」ではゲームを作りました。これは画面上にブロックが表示され OA 画面が隠されます。リモコンのボタンでキャラクターを操作して弾丸を発射し、ブロックを消していくとプレゼント応募用のキーワードが見える内容です。さらにマルチチャンネル放送も行い、「TORE!」のสปินオフ番組で出題されるクイズの答えを視聴者の皆様にチャンネルで選択して頂きました。反響はかなりあり

ましたので、地デジ完全移行すると様々な可能性がある、色々な事ができると視聴者の皆様に実感して頂き、さらに地デジの楽しさを番組の中に織り込んでいきます。何よりもリアルタイム視聴でしか味わえない楽しさですので、視聴誘引にもつながります。

記者：地デジ完全移行後に視聴者の動態で変化はありますか。

大久保社長：視聴率という観点で見ると大きな変化は見られません。

#### 4. その他

記者：韓国ドラマが他局では主婦層だけではなくて若い女性層にも視聴が広がっているそうですが、日本テレビでは放送する予定はありますか。

小杉取締役：極めて良いソフトがあったら放送すると思いますが、現時点では地上波で放送するソフトはないと判断しています。私どもが製作しているドラマの方がパワーがあると考えています。

記者：NHKの経営計画について、受信料の値下げの議論が続いています。その点の見解はいかがでしょうか。

大久保社長：他局のことですので私から申し上げる事はありません。ただし、日本の放送はNHKと民間放送との二元体制ですので、様々な新規事業に乗り出されるのであれば民間放送を脅かす事のないようにして頂きたいとの要望は常にあります。

記者：10月からBSのチャンネル数が拡大し、有料放送も増えますが、今後の見通しはいかがでしょうか。

大久保社長：これからBSのチャンネル数が増えて地上波にとってライバルが増える形になりますが、テレビ放送業界全体として地上波、衛星波等、テレビ放送の魅力が高まっていけば良いと考えています。新規BSチャンネルによって視聴動向に変化が出るかどうかは、番組コンテンツの質の高さ、あるいは視聴ターゲットによると思いますので、BS各局の番組編成は注目していきます。

記者：9月からアメリカの動画配信サービスHuluが日本でもサービス開始しましたが、今後放送業界に影響が出ると思われませんか。また今後の動画配信につ

いての構想をお願いします。

大久保社長：アメリカと日本ではテレビ文化が違いますので、アメリカのビジネスモデルがそのまま日本でも成功するかどうかについては何とも言えません。興味深く日本での今後の展開を見ていきたいと考えています。一方で、見逃し視聴や VOD 事業等は民放として提携できるところは提携してやっていきます。また独自で展開するために着々と作業が進んでいます。新しいテレビ機器としてスマートテレビ等も普及すると新たな対応を迫られますので、ハードウェアの普及状況も見守りながら積極的に動画配信事業にも取り組んでいこうと考えています。

(了)